

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

よみがえる日本映画 vol.6[東宝篇]

—映画保存のための特別事業費による

The Little Known Japanese Cinema vol. 6
— NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios

2013年10月31日(木) - 11月24日(日)

10-11月の休館日:

月曜日

* 8月8日(木) - 10月30日(水)は、空調工事のため大ホール・小ホールの上
映を休止いたします。

大ホール

開映後の入場はできません。

定員=310名(各回入替制)

料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/小・中学生100円/

障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

発券=2階受付

- 観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- 発券は各回1名につき1枚のみです。



東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

よみがえる日本映画

—映画保存のための特別事業費による

vol. 6
東宝篇



2013

10

NFCカレンダー
2013年10月号

大ホール 上映作品

よみがえる日本映画 vol.6

[東宝篇]

—映画保存のための特別事業費による

The Little Known Japanese Cinema vol. 6 - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios

フィルムセンターでは、平成21年度補正予算から映画保存のための特別事業費を得て、通常の収集活動では困難なフィルム・コレクションの拡充や原素材の整備に取り組んできました。事業の実施にあたっては、次のような二つの方針が定められました。

①フィルムセンターがこれまでに収集した貴重なフィルムから保存用のネガと上映用のニュー・プリントを作成する。

②映画会社が保管している旧作映画のうち、既にネガが失われマスター・ポジ、上映プリントのみが残されている作品を調査して、ネガとニュー・プリントの作成を行う。

今回の特別事業により、既存のコレクションからの原版作成は159作品、映画会社からの購入は173作品、総数では332作品(フィルムの総数は909本)が新たにフィルムセンターのコレクションとして収蔵されることになりました。とりわけ後者は、これまでフィルムセンターでの収集がかなわなかった作品、映画館のスクリーンでは久しく見るができなかった作品がほとんどを占めています。それらをまとめて紹介する企画の第6弾となる今回は、東宝の作品を取り上げ、その前身にあたるP.C.L., J.O.時代を含む初期の作品や巨匠たちの知られざる作品を19のプログラム(計20本)で紹介いたします。ニュー・プリントで甦った日本映画をフィルムセンターの大スクリーンでお楽しみください。

*本事業の実施にあたっては、社団法人日本映画製作者連盟加盟社等映画会社各社および現像所各社のご協力をいただきました。

- ①=監督・演出 ②=原作・原案 ③=脚本・脚色
- ④=撮影 ⑤=美術・装置 ⑥=音楽 ⑦=出演
- スタッフ、キャストの人名は原則として公開当時の表記を記載しています。
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。



純情の都



あきれた連中

1 10/31(木)3:00pm 11/22(金)7:00pm

純情の都 (65分・35mm・白黒)

写真化学研究所(略称P.C.L.)の自主製作開始第2作(第1回作品は同じく木村莊十二監督による『音楽喜劇 ぼろよひ人生』(1933)。明治製菓とのタイアップにより、製作費の軽減がはかられた。原作は、ムーラン・ルージュ新宿座の芸芸部・島村竜三が脚本・演出を担当した「恋愛都市東京」。ムーラン・ルージュの女優で、原作舞台にも同じ役で出演した竹久千恵子は、本作で映画デビューし、モダンガール女優として人気を博した。松屋浅草支店にあった屋上遊戯施設「スポーツランド」でのロケ撮影も見所。

'33(P.C.L.) ①木村莊十二 ②島村竜三 ③松崎啓次 ④立花幹也 ⑤北猛夫 ⑥紙恭輔 ⑦奥田良三 ⑧竹久千恵子 ⑨千葉早智子 ⑩堤眞佐子 ⑪島耕二 ⑫大川平八郎 ⑬徳川夢声 ⑭古川緑波 ⑮丸山定夫 ⑯藤原釜足 ⑰岸井明 ⑱神田千鶴子

2 10/31(木)7:00pm 11/15(金)3:00pm

青春酔虎傳 (85分・35mm・白黒)

1933年12月5日、写真化学研究所は、映画製作を行う別会社として、P.C.L.映画製作所を新たに創設する(以降、この映画会社のほうをP.C.L.と呼ぶ)。本作は、日活(太秦撮影所)から移籍した山本嘉次郎のP.C.L.第1作目にして、喜劇王エノケンのP.C.L.初主演作。数々の歌のシーンはもちろん、カフェでの喧嘩シーンなども楽しい。この作品の大ヒットにより、P.C.L.はオペレッタ映画にいつそう力を入れることになる。

'34(P.C.L.) ①山本嘉次郎 ②P.B.及P.C.L.文藝部 ③唐澤弘光 ④北猛夫 ⑤紙恭輔 ⑥栗原重一 ⑦榎本健一 ⑧二村定一 ⑨如月寛多 ⑩森健二 ⑪柳田貞一 ⑫丸山定夫 ⑬藤原釜足 ⑭中村是好 ⑮大川平八郎 ⑯千葉早智子 ⑰堤眞佐子

3 11/1(金)3:00pm 11/16(土)4:00pm

女優と詩人 (72分・35mm・白黒)

成瀬巳喜男は、松竹からP.C.L.に1934年に移籍。翌35年には、自身にとって初めてのトーキーにもなった『乙女ごころ三人姉妹』を皮切りに、次々に監督作を発表。本作は、『乙女ごころ三人姉妹』と同月に公開された移籍第2作目。トーキー初期の作品らしく、音の演出に様々な工夫が見られる。また、女優(千葉)と詩人(宇留木)の夫婦が、夫婦喧嘩の演技の稽古をするという、劇中劇の入れ子構造になっているのも面白い。最後の、エンド・クレジットが消える直前にかすかに入る男性の声に注意してほしい。

'35(P.C.L.) ①成瀬巳喜男 ②中野實 ③永見隆二 ④鈴木博 ⑤久保一雄 ⑥伊藤昇 ⑦宇留木浩 ⑧千葉早智子 ⑨藤原釜足 ⑩三遊亭金馬 ⑪佐伯秀男 ⑫神田千鶴子 ⑬戸田春子 ⑭三島雅夫 ⑮宮野照子 ⑯新田洋子

4 11/1(金)7:00pm 11/17(日)1:00pm

サーカス五人組 (65分・35mm・白黒)

成瀬巳喜男のP.C.L.移籍第4作目。古川緑波(ロッパ)のレヴュー「悲しきジンタ」を原作とした旅芸人もの。ジンタの五人組(大川・宇留木・藤原・宮川・御橋)は、とある町で当てにしていた仕事がなく、安宿で暇をつぶしている。この町では、現在サーカスが興行しているが、団長(丸山)に反発し、彼の実の娘たち(堤・梅園)を除いた、他の団員全てがストライキを起こしてしまった。このサーカスの舞台上に急遽上がることになったのが、ジンタの五人組で…。

'35(P.C.L.) ①成瀬巳喜男 ②古川緑波 ③伊馬鶴平 ④永見隆二 ⑤鈴木博 ⑥山崎醇之輔 ⑦紙恭輔 ⑧大川平八郎 ⑨宇留木浩 ⑩藤原釜足 ⑪リキー宮川 ⑫御橋公 ⑬丸山定夫 ⑭加賀見二 ⑮森野鍛冶哉 ⑯堤眞佐子 ⑰梅園龍子 ⑱三條正子 ⑲清川虹子

5 11/5(火)3:00pm 11/20(水)7:00pm

あきれた連中 (58分・35mm・白黒)

P.C.L.と吉本興業の第1回提携作品。エンタツ・アチャコは、「漫才」のスタイルを確立し、吉本興業の発展に大きく貢献したコンビ。本作では、彼らの最も有名なネタの一つ「早慶戦」などが見られる。また、チャップリンを意識したと思いきボクシングのコメディも取り入れられている。なお、原作にクレジットされている秋田實は、エンタツ・アチャコほか、多くの漫才師に脚本を提供した漫才作家で、NHK朝の連続テレビ小説「心はいつもラムネ色」(1984-85)の主人公のモデルになった人物。

'36(P.C.L.=吉本興業) ①岡田敬 ②伏水修 ③秋田実 ④永見隆二 ⑤鈴木博 ⑥久保一雄 ⑦紙恭輔 ⑧横山エンタツ ⑨花菱アチャコ ⑩徳川夢声 ⑪堤眞佐子 ⑫リキー宮川 ⑬神田千鶴子 ⑭清川虹子

6 11/5(火)7:00pm 11/16(土)1:00pm

戀愛の責任 (71分・35mm・白黒)

日本の「前衛」運動の旗手であり、造形芸術や演劇・パフォーマンスなど、多方面で活躍したことで知られる村山知義が、映画監督デビューを飾った作品。父親の遺した多額の借金により、相続した家も財産もすべて差し押さえられた姉妹(細川・堤)は、それぞれに生きる道を探る。舞台作品のような出だしや、ときおり挟まれる意表をついたカメラアングルが特徴的。

'36(P.C.L.) ①村山知義 ②片岡鉄兵 ③鈴木博 ④久保一雄 ⑤伊藤昇 ⑥堤眞佐子 ⑦竹久千恵子 ⑧細川ちか子 ⑨大川平八郎 ⑩北沢彪 ⑪佐伯秀男 ⑫丸山定夫 ⑬清川玉枝 ⑭三好久子 ⑮近藤伊与吉 ⑯三島雅夫 ⑰鶴丸隆彦 ⑱中村栄二 ⑲藤ノ木七郎 ⑳村井永二郎

7 11/6(水)3:00pm 11/17(日)4:00pm

お嬢さん (72分・35mm・白黒)

松竹で成瀬巳喜男の助監督だった縁で、彼の移籍と共にP.C.L.に移った山本薩夫の監督デビュー作。ブルジョワの娘(霧立)が、親からの自立を望んで、九州南端の小さな島にある女学校に英語教師として赴任するが、島の住民には受け入れられない。東宝争議の際にフリーとなり、骨太な社会派として知られることになる山本監督は、戦前の東宝ではこうした女性ドラマ、メロドラマをつくっていた。

'37(P.C.L.) ①山本薩夫 ②吉屋信子 ③永見隆二 ④三村明 ⑤戸塚正夫 ⑥伊藤昇 ⑦霧立のぼる ⑧山縣直代 ⑨嵯峨善兵 ⑩北澤彪 ⑪清川玉枝 ⑫澤蘭子 ⑬三島雅夫 ⑭伊藤智子 ⑮御橋公 ⑯宮野照子 ⑰高峰秀子

8 11/6(水)7:00pm 11/23(土)1:00pm

権三と助十 (81分・35mm・白黒)

伊丹万作のJ.O.スタジオ移籍第2作。講談「大岡政談」の中の「権三と助十」を下敷きにした岡本綺堂の同名戯曲の映画化で、長屋の人々の描写などに演出の巧さが光る秀作。本作公開と同年の1937年、P.C.L.とその親会社の写真化学研究所、J.O.スタジオ、東宝映画配給の4社が合併し、東宝映画(以降、東宝と呼ぶ)が誕生。翌年伊丹はその東宝で、『巨人伝』を撮るが、監督作はそれが最後となる。

'37(J.O.) ①伊丹万作 ②岡本綺堂 ③三木茂 ④高橋庚子 ⑤紙恭輔 ⑥小笠原章二郎 ⑦花井蘭子 ⑧鳥羽陽之助 ⑨高堂国典 ⑩澤村昌之助 ⑪横山運平 ⑫鬼頭善一郎 ⑬澤井三郎 ⑭山田好良 ⑮上田吉二郎 ⑯進藤英太郎 ⑰深見泰三 ⑱冬木京三

9 11/7(木)3:00pm 11/15(金)7:00pm

初戀 (77分・35mm・白黒)

村山知義の監督第2作。アメリカの劇作家ユージン・オニールの「ああ荒野」(1935年にクラレンス・ブラウ監督が映画化)を、村山が日本を舞台に翻案。新協劇団の俳優が総出演している。当時、同劇団に所属し、本作で一家の次男を演じた野々村潔は、女優・岩下志麻の父。

'39(東宝京都) ①村山知義 ②ユージン・オニール ③山崎一雄 ④河東安英 ⑤市川元 ⑥瀧澤修 ⑦末弘美子 ⑧赤木蘭子 ⑨三島雅夫 ⑩大森義夫 ⑪野々村潔

10 11/7(木)7:00pm 11/22(金)3:00pm

幼き者の旗 (73分・35mm・白黒)

佐藤武監督が日中戦争の最中に手掛けた児童映画。父の出征に伴い、母(澤村)と共に、母方の祖父(汐見)の家に引っ越して来た修一郎と大作(小高まさる・たかし)。兄弟は、出征中の家族がいる印にと小学校からももらった旗を、家の柿の木に取り付ける。だが、戦争ごっこで、少尉の父を持つ金ちゃんに悔しい思いをさせられた二人は、金ちゃんの家よりも、旗を高く掲げようとして…。

'39(東宝京都) ①佐藤武 ②氏原大作 ③鈴木紀子 ④河崎喜久三 ⑤山崎醇之輔 ⑥伊藤昇 ⑦小高まさる ⑧小高たかし ⑨澤村貞子 ⑩汐見洋 ⑪神田千鶴子 ⑫水町庸子 ⑬大倉文雄 ⑭三條利喜江 ⑮山田好良 ⑯山根壽子

11 11/8(金)3:00pm 11/13(水)7:00pm 11/23(土)4:00pm

化粧雪(75分・35mm・白黒)

石田民三は、元新劇俳優で、映画界にも当初、俳優として入ったが、のちに監督に転身。東宝ではすでに『花ちりぬ』(1938)などを手掛け、女性の描写に高い評価を得ていた。本作は、石田が、病気で降板した成瀬巳喜男に代わり、彼の原作を山田五十鈴主演で映画化したもの。山田は、病床の父親(汐見)に代わり、経営する寄席を守ろうと奮闘する娘を演じている。

'40(東宝東京)◎石田民三◎成瀬巳喜男◎岸松雄◎山崎一雄◎久保一雄◎太田忠◎山田五十鈴◎藤原釜足◎大川平八郎◎一龍齋貞山◎汐見洋◎清川虹子◎伊東薫◎佐山亮◎深見泰三◎藤輪欣司◎宮野照子◎三折紋彌

12 11/8(金)7:00pm 11/14(木)3:00pm

虞美人草(88分・35mm・白黒)

のちに怪談映画で知られることになる中川信夫監督が、東宝で手掛けた夏目漱石作品の映画化。漱石が専業作家に転身後はじめて発表した長篇『虞美人草』(1907)は、溝口健二監督がかつて映画化し(第一映画、1935)、これが2度目。甲野欽吾(高田)とその腹違いの妹・藤尾(霧立)。藤尾には、兄の親友で遠縁でもある許嫁の宗近一(江川)がいたが、彼女自身は、小野(北澤)という青年を気に入っていた。だが、小野にはすでに恋人の小夜子(花井)がいて…。場面転換を巧みに行うことで、原作の入り組んだ人間模様をうまく再現している。

'41(東宝東京)◎中川信夫◎夏目漱石◎櫻田半三◎三浦光雄◎河東安英◎早坂文雄◎高田稔◎霧立のぼる◎伊藤智子◎江川宇禮雄◎花柳小菊◎勝見庸太郎◎花井蘭子◎北澤彪◎嵯峨善兵◎玉井旭洋◎龍崎一郎

13 11/9(土)1:00pm 11/14(木)7:00pm 11/20(水)3:00pm

歌へ!太陽(51分・35mm・白黒)

東宝が第二次大戦後に初めて公開した作品。戦争末期に企画されたものだが、慰安的な娯楽作品だったため、GHQの検閲により新作の発表が困難になっていたにもかかわらず、何とか公開にこぎつけた。バックステージもので、エノケンのパントマイムや、主要キャストによる歌の競演が見所。

'45(東宝)◎阿部豊◎菊田一夫◎八住利雄◎小原譲治◎北猛夫◎伊藤昇◎榎本健一◎轟夕起子◎灰田勝彦◎川田義雄◎竹久千恵子◎中北千枝子◎高勢美奈◎河野糸子◎羽鳥敏子◎飯田房江◎宮川五十鈴

鬼火(46分・35mm・白黒)

高度経済成長期を迎えて、映画人口も増大し、新作封切は2本立が定着した。東宝は1956年より「ダイヤモンド・シリーズ」と銘打ち、低予算であっても良質な併映中篇の提供を掲げて、メインの作品に劣らないスタッフ・キャストを揃えた。本作は、同年に東宝の正式な所属となったばかりの千葉泰樹監督を起用した、シリーズ第1作目。ガス会社の集金係(加東)は、寝たぎりの夫(宮口)を抱えて困窮した妻(津島)に、ガスの支払いを待つからと、肉関係係を迫る。部屋の電灯、ガスこんろなどを利用した演出の上手さが際立つ。

'56(東宝)◎千葉泰樹◎吉屋信子◎菊島隆三◎山田一夫◎中古智◎伊福部昭◎津島恵子◎加東大介◎宮口精二◎中村伸郎◎中田康子◎清川玉枝◎中北千枝子◎堺左千夫◎筈川武夫◎三條利喜江◎佐田豊◎如月寛多

14 11/9(土)4:00pm 11/19(水)3:00pm

檜舞台(88分・35mm・白黒)

東宝の黄金コンビであった長谷川一夫と山田五十鈴を主役に、文芸映画の名匠・豊田四郎が監督したバックステージもの。映画評論家の菅見恒夫が東宝に入社し、プロデュースした第1作でもある。古巣の劇団に帰ってきた復員兵の梅村曾太郎(長谷川)と、劇団の看板女優・邦子(山田)の恋模様。さらには、曾太郎が探し求める父(志村)が息子に寄せる思いが描かれる。

'46(東宝)◎豊田四郎◎八木隆一郎◎立花幹也◎松山崇◎鈴木静一◎長谷川一夫◎山田五十鈴◎山根壽子◎志村喬◎林文夫◎河野秋武◎進藤英太郎◎深見泰三◎田中春男◎菅井一郎◎清川玉枝

15 11/10(日)1:00pm 11/19(水)7:00pm

浦島太郎の後裔(83分・35mm・白黒)

終戦後、盛んに作られた民主主義高揚映画の一種で、成瀬作品の中では異色作。フランク・キャプラ監督『ミス都へ行く』(1939)、『群衆』(1941)などからの影響が色濃く見られる。奇妙な叫び声で人気を得た元復員兵・浦島五郎(藤田)を、新聞社は政党に売りつけ、政党は民衆の扇動に利用する。のちに第一次東宝争議と呼ばれることになる、東宝従業員組合のストライキの最中に公開された。

'46(東宝)◎成瀬巳喜男◎八木隆一郎◎山崎一雄◎安部輝明◎山田和男◎藤田進◎高峯秀子◎山根壽子◎菅井一郎◎進藤英太郎◎花澤徳衛◎飯田房江◎矢の島ひで子◎鹿野千代子◎青野太郎◎中村伸郎◎杉村春子◎三津田健◎龍岡晋◎宮口精二

16 11/10(日)4:00pm 11/21(木)7:00pm

霧笛(99分・35mm・白黒)

開国・開港期の横浜の居留地で出会った男女の悲恋を描いた、大佛次郎の代表作『霧笛』(1933)。その2度目の映画化として東宝が谷口千吉監督を起用してつくったのが本作。大佛の原作及び村田実監督による最初の映画化(新興キネマ、1934)とは、ヒロインの設定や、物語の結末などが変更されている。

'52(東宝)◎谷口千吉◎大佛次郎◎八住利雄◎玉井正夫◎松山崇◎齊藤一郎◎飯田信夫◎山口淑子◎三船敏郎◎ポップ・プース◎志村喬◎村上冬樹◎柳谷寛◎左ト全◎千石規子◎上山草人◎河崎賢男◎熊谷二良◎瀬良良明◎廣瀬正一

17 11/12(水)3:00pm 11/24(日)1:00pm

夜の終り(94分・35mm・白黒)

谷口千吉監督が手掛けた犯罪映画の佳作。恋人(岡田)との結婚を控えた木崎(池部)は、道端で酔いつぶれていた男の胸ポケットにあった大金が目くらみ、もみ合いになったはずみでその男を殺してしまう。木崎は、逃亡の過程で、街の顔役(清水)や売春婦(三益)に助けられるが…。犯罪に手を染めた主人公が、次第に正常な判断力を失っていくが最後には正気を暗取り戻すさまと、彼が目当たりする様々な都会の暗部とが共に描き出される。

'53(東宝)◎谷口千吉◎菊島隆三◎山田一夫◎松山崇◎芥川也之志◎池部良◎岡田茉莉子◎三益愛子◎志村喬◎小川虎次◎清水将夫◎清水元◎藤原釜足◎坪内美子◎音羽久米子◎虹川レイ子◎宮崎恭子◎菅井きん

18 11/12(水)7:00pm 11/21(木)3:00pm

麥笛(103分・35mm・白黒)

室生犀星の自伝的短篇『性に眼覚める頃』(1919)を、豊田四郎監督が映画化。豊田は、この直後に代表作『夫婦善哉』(1955)を手掛けるなど、キャリアの円熟期を迎えており、本作でも、思春期の青年たちの揺れ動く恋心が丁寧に演出されている。原作の舞台は室生の出身地である金沢だが、映画の舞台は倉敷に変更された。蔵屋敷や掘割をはじめ、倉敷に残る古い街並みを鮮明に捉えた三浦光雄の撮影も素晴らしい。

'55(東宝)◎豊田四郎◎室生犀星◎池田一郎◎三浦光雄◎河東安英◎団伊玖磨◎久保明◎太刀川洋一◎青山京子◎越路吹雪◎志村喬◎藤原釜足◎左ト全◎浜田百合子◎中北千枝子◎浪花千栄子◎三好栄子

19 11/13(水)3:00pm 11/24(日)4:00pm

くちづけ(115分・35mm・白黒)

当時の東宝のスターが多数出演した、石坂洋次郎の短篇を原作とするオムニバス映画。製作は、藤本真澄と成瀬巳喜男が共同で担当し、成瀬は第三話の監督と全体の総監修も務めた。いずれの話においても若者の恋愛が描かれているが、成瀬の演出した第三話では、メインは大人の女性の嫉妬心である。医師の夫(上原)に好意を持つ若い看護師(中村)に、八百屋の息子(小林)を近づけようと画策する妻を、高峯秀子が演じている。

'55(東宝)◎[第一話]寛正典◎[第二話]鈴木英夫◎[第三話]成瀬巳喜男◎石坂洋次郎◎松山善三◎山崎一雄◎中古智◎斎藤一郎◎[第一話]青山京子◎杉葉子◎太刀川洋一◎十朱久雄◎笠智衆◎滝花久子◎[第二話]司葉子◎中原ひとみ◎小泉博◎飯田蝶子◎藤原釜足◎清川虹子◎[第三話]高峯秀子◎中村メイコ◎上原謙◎小林桂樹◎伊豆肇

お知らせ

ユネスコ「世界視覚遺産の日」
記念特別イベント
In Celebration of UNESCO World Day
for Audiovisual Heritage

伝説の映画コレクション

早稲田大学演劇博物館所蔵フィルム
特別上映会

Special Screening:
Film Collection Preserved by
The Tsubouchi Memorial THEATRE MUSEUM,
Waseda University

2013年11月2日(土)・3日(日)

東京国立近代美術館フィルムセンター

大ホール(2階)

共催:早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

明治期の活動写真から
南方占領地の宣伝映画まで
演劇博物館の珠玉のコレクションが
スクリーンによみがえる

早稲田大学演劇博物館は、坪内逍遙博士の古稀と「シェークスピア全集」40巻の翻訳完成を記念して1928年に開館して以来、80余年もの歴史を誇る演劇資料の宝庫として知られていますが、一方、この演劇博物館が早くから映画フィルムの収集にも取り組み、ユニークなコレクションを構築してきたことは特筆に値します。特に、1970年にフィルムセンターが開館する以前の日本の映画保存に演劇博物館が果たした役割は大きく、こうして奇跡的に散逸を免れた映像には、演劇史的にも映画史的にも目をみはるべき内容のものが数多く含まれています。

本特別上映会は、それらの中から明治、大正期に作られた初期日本映画や海外の無声映画、日本映画社が戦中にインドネシアで製作した宣伝映画など、特に重要なコレクションを精選し、フィルム上映で紹介する貴重な機会となります。

・詳細は当該チラシまたはフィルムセンターのホームページをご覧ください。



櫻田血染ノ雪(1909年、吉澤商店)

2階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

fiaf75
1938-2013

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは今今年75周年を迎えました。

よみがえる日本映画 vol.6 [東宝篇] — 映画保存のための特別事業費による
The Little Known Japanese Cinema vol. 6 - NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios

月	火	水	木	金	土	日
10月			1 純情の都 3:00pm (65分)	3 女優と詩人 3:00pm (72分)	ユネスコ「世界視覚遺産の日」 記念特別イベント 伝説の映画コレクション 早稲田大学演劇博物館所蔵フィルム特別上映会	
			2 青春酔虎傳 7:00pm (85分)	4 サーカス五人組 7:00pm (65分)		
11月	4 あきれた連中 3:00pm (58分)	7 お嬢さん 3:00pm (72分)	9 初戀 3:00pm (77分)	11 化粧雪 3:00pm (75分)	13 歌へ!太陽 鬼火 1:00pm (46分)	15 浦島太郎の後裔 1:00pm (83分)
	6 戀愛の責任 7:00pm (71分)	8 權三と助十 7:00pm (81分)	10 幼き者の旗 7:00pm (73分)	12 虞美人草 7:00pm (88分)	14 檜舞台 4:00pm (88分)	16 霧笛 4:00pm (99分)
	17 夜の終り 3:00pm (94分)	19 くちづけ 3:00pm (115分)	12 虞美人草 3:00pm (88分)	2 青春酔虎傳 3:00pm (85分)	6 戀愛の責任 1:00pm (71分)	4 サーカス五人組 1:00pm (65分)
	18 麥笛 7:00pm (103分)	11 化粧雪 7:00pm (75分)	13 歌へ!太陽 鬼火 7:00pm (46分)	9 初戀 7:00pm (77分)	3 女優と詩人 4:00pm (72分)	7 お嬢さん 4:00pm (72分)
	14 檜舞台 3:00pm (88分)	13 歌へ!太陽 鬼火 3:00pm (51分)	18 麥笛 3:00pm (103分)	10 幼き者の旗 3:00pm (73分)	8 權三と助十 1:00pm (81分)	17 夜の終り 1:00pm (94分)
	15 浦島太郎の後裔 7:00pm (83分)	5 あきれた連中 7:00pm (58分)	16 霧笛 7:00pm (99分)	1 純情の都 7:00pm (65分)	11 化粧雪 4:00pm (75分)	19 くちづけ 4:00pm (115分)

展示室(7階)

[企画展]

チェコの映画ポスター
テリー・ポスター・コレクションより

Czech Posters for Films
From the Collection of Terry Posters

共催: 京都国立近代美術館
後援: 駐日チェコ共和国大使館 協力: チェコセンター

2013年8月28日(水) - 12月1日(日)

*月曜日は休室。

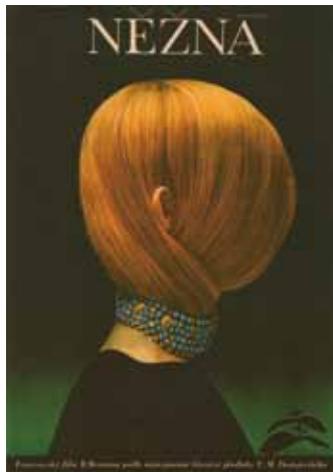
映画を超えても、いいですか。

絵本、人形劇、アニメーションなどの分野でよく知られるチェコは、映画ポスターのデザインでも数々の名作を生んできました。それまでの社会主義リアリズムから脱却した1960年代には、カレル・タイシク、ミラン・グリガル、ズデニェク・ツイーグルに代表される新世代のグラフィック・アーティストが台頭し、映画作品のエッセンスを巧みに引き出しながら、時に映画を大胆に異化するその創意によって、映画ポスターというジャンルに独自の表現を打ち立てました。

この展覧会では、フィルムセンターと京都国立近代美術館の共催により、プラハの映画ポスター専門ギャラリー《テリー・ポスター》が所蔵する、チェコスロヴァキア時代の1950年代後半から1980年代までに制作された映画ポスター82点を紹介します。1960年代に《チェコ・ヌー

ヴェル・ヴァーグ》と称されたチェコスロヴァキア映画のほか、ヨーロッパ各国の作品やアメリカ映画、さらには日本映画のポスターにも注目し、映画とグラフィックの出会いから生まれる緊張感と優美さ、そしてユーモアを呈示します。

・詳細は当該チラシまたはフィルムセンターのホームページをご覧ください。



『やさしい女』(1969年/フランス/ロベール・ブレッソン監督)
ポスター: オルガ・ボラーチコヴァー=ヴィレチャロヴァー(1970年)

[常設展] 企画展に併設

NFCコレクションでみる
日本映画の歴史

Nihon Eiga: The History of Japanese Film
From the NFC Non-Film Collection

映画の渡来した19世紀末から発展を続け、二つの黄金時代を経験した日本映画の豊かな歴史を、長年フィルムセンターが収集してきた多彩なコレクション(ポスター、スチル写真、雑誌、製作資料、業界資料、カメラなど機械類、映画人の遺品、映像など)によってたどります。日本映画史の新しい学びの場として、小学生から大人まで幅広い世代の方々を対象とする内容になっています。(Captions in Japanese and English)

開室時間=午前11時~午後6時30分

(入場は午後6時まで)

料金(企画展・常設展共通)=一般200円(100円)/大学生・シニア70円(40円)/高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。

* フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

常設展ギャラリー・トーク

毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日)
10月5日 *11月はお休みします。

図書室カレンダー

赤字は休室日

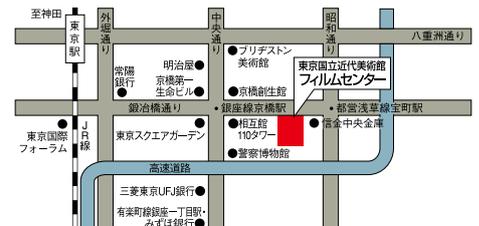
10月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26
	28	29	30	31		

11月

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
	4	5	6	7	8	9
	11	12	13	14	15	16
	18	19	20	21	22	23
	25	26	27	28	29	30

図書室(4階) 開室=火曜日~土曜日(午後0時30分~午後6時30分/入室は午後6時まで) 閉室=休館日および曜日・祝日



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分

都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分

JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600

NFCホームページ:

<http://www.momat.go.jp/>

NFC携帯電話ホームページ:

<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

